

「すべての原発を廃炉にしよう！」シリーズ 1 1

**バナナのたたき売り？
原発15%への誘導！**

(投稿 平山裕一さん、佐藤健太さん組合員家族)

原発存続…現状維持を画策する野田政権

将来のエネルギー政策に関する「国民の声を聴く」と政府が主催する意見聴衆会が全国で開催されている。しかしその内容は、2030年の原発比率を0%、15%、20~25%とあらかじめ三つの選択から選択するよう設定されている。しかも発言者は一人8分間のみで質疑もない。しかも仙台では東北電力関係者が、名古屋では中部電力社員が発言し「放射能で死んだ人はいない」などと発言した。つまりこれまでの「やらせ公聴会」となら変わらない茶番劇で、8月末には将来の原発依存率を決めようとしている。

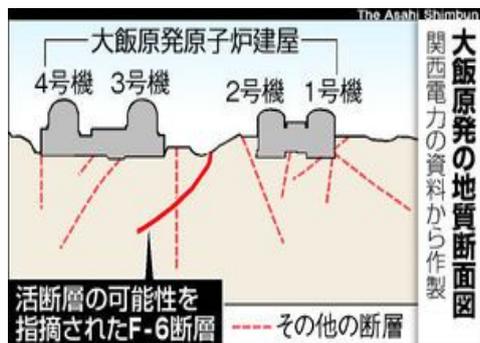
その狙いは「原発比率15%」だと言われている。つまり0%以外とは再処理工場は稼働、高速増殖炉「もんじゅ」開発継続、原発存続…つまり現状維持にもっていこうとしている。

東電の値上げでもそうだが、あらかじめ10.28%で申請し、8.46%に圧縮して認める。一見下がったような感覚になるが、現状より8.46%の値上げが国民に押しつけられた。政府がやっていることは、まるで『バナナのたたき売り？』…詐欺行為ではないか。

また意見聴衆会では別に、パブリックコメントとして政府に意見をいう場があります。インターネットからグリーンピースなどの自然保護団体のホームページから入れます。内閣府のホームページからは、入りにくい。さらに郵送やFAXでも可能です。締切は8月12日18時です。

活断層があっても危険はない？

さらに7月18日大飯4号機が3号機に続き起動した。しかし同日、保安院は「4号機建屋直近にある断層の再調査」を関電に指示した。しかし牧野聖修経産副大臣は「再稼働



を中止するほどの危険性があるとは認識していない」と言った。この牧野なる男は、大飯原発再稼働の安全性を強化するために現地に送られた、政府の「特別な監視体制」の責任者である。野田が言う『安全』とはこの程度のものでしかない。